

地球儀

米津玄師

作詞作曲 米津玄師

解説版

(↓ 広大なサファリの地平線に何も無い私が立ってる)

イントロ

僕が生まれた日の空は

(↓ 手の中にお日様。手で太陽を昇らせている神様)

高く遠く晴れ渡っていた

(↓ 大丈夫だよ、という気持ちを込めて撫でる)

行っておいでと背中を撫でる

(↓ ハイヤーセルフからの声、直感)

(↓ どこから聞こえてきたかわからないから後ろを振り返るけど、エネルギーが外に飛び散るんじゃなくて自分の内とコネクトする。ハイヤーセルフは自分の内にあるから)

声を聞いたあの日

(↓ 春夏秋冬自分の手のひらの中で回している)

季節の中ですれ違い

(↓ 人を傷つけることは自分を傷つけること、自分のハートを裂く)

時に人を傷つけながら

(↓ 罪悪感で血みどろになった手を眺める自分がいる。要は自分の中の邪を直視している。光と闇はセット。傷ついた手で光に触れたら逆に影が増える。だから余計に空は遠く感じる。絶望の中、空を仰ぎたい。)

光に触れて影を伸ばして 更に空は遠く

(↓ 無限の風を受けて風車のように回る)

風を受け走り出す

(↓ 壁を超えていく作業って常に人生にある。新しい自分を超えていく体感を起こすムーブ) 瓦礫を越えていく

(↓ どこまでも続くまっすぐな道をイメージ)

この道の行く先に

(↓ 誰か▶まだコネクトできていない自分のハイヤーセルフ)

誰かが待っている

(↓ 自分の中で見たい夢を感じて松果体へ)

光さす夢を見る

(↓ 天と地にエネルギーを差し出す)

(↓ 陰陽統合。自分とハイヤーセルフを統合)

いつの日も

(↓ オープンハート。私のハートを世界に差し出す)

扉を今開け放つ 秘密を暴くように

(↓ ハートのエネルギーがポップコーンのように弾ける)

飽き足らず思い馳せる

(↓ ワタシの手の中に地球があって 行っておいでと放り投げる)

地球儀を回すように

僕が愛したあの人は 誰も知らないところへ行った
あの日のままの優しい顔で 今もどこか遠く

(↓ 「風を受け」よりも重たく)

雨を受け歌い出す 人目も構わず

(↓ 「死にたい」と思っても「生きている」のは深い潜在意識からの強烈な「生きる！」という願いがあるから。)

この道が続くのは 続けと願ったから

また出会う夢を見る いつまでも

一欠片握り込んだ 秘密を忘れぬように

(↓ 菩薩になっやような感じ。世界中の願いの綿毛をボワッと広げる)

最後まで思い馳せる

地球儀を回すように

間奏 (草花たちの指揮をとっているように)

(↓ ワルツのステップ)

(↓ 迷って迷ってコチョコチョして、でも真ん中に戻ってきて寂しさを抱えながら何かを見つけた)

小さな自分の 正しい願いから始まるもの
ひとつ寂しさを抱え 僕は道を曲がる

風を受け走り出す 瓦礫を越えていく

この道の行く先に 誰かが待っている

光さす夢を見る いつの日も

扉を今開け放つ 秘密を暴くように

手が触れ合う喜びも 手放した悲しみも

飽き足らず描いていく

(↓ 未来にエネルギーを飛ばす)

地球儀を回すように